

違法薬物使用の減少に向けた12-ステッププログラムは、他の介入に比べて、良くも悪くもない



12-ステップの介入は、薬物使用の減少に関して、他の心理社会的な介入に比べて良くもなく悪くもない

このレビューのねらいは何か？

このキャンベル系統的レビューは、違法薬物使用を減らすための12-ステッププログラムの有効性を調査する。レビューでは10の研究結果を要約する。その内9つはアメリカ合衆国で実施された。

違法薬物の乱用は、乱用者、その家族、友人、社会全体にまで、広範囲に及ぶ深刻な影響を及ぼす。望ましい介入プログラムというのは、違法薬物の使用とそれによるネガティブな結果を効果的に減少させ、その上費用対効果が高いものである。現在のエビデンスが示すことは、12-ステッププログラムの効果は他の心理社会的介入と全く同様だということである。従って、プログラムの費用は重要な条件となる。しかし、これらの研究の強度は弱く、12-ステッププログラムの有効性に関する更なるエビデンスが必要とされる。

このレビューは何についてのものか？

違法薬物の乱用は、人的、社会的ならびに経済的に高いコストに繋がるグローバルな問題として認識されている。

12-ステッププログラムは、アルコホーリクス・アノニマスのアプローチをモデルとし、ナルコティクス・アノニマスなどによって採用された。このプログラムは、完全な断酒（断薬）を目的としている。12-ステップアプローチは、セルフヘルプグループと、Twelve Step Facilitation (TSF)と呼ばれる専門家の治療の双方で用いられている。

このレビューは、違法薬物使用の減少における、12ステッププログラムの有効性を調査する。検討される副次評価は、犯罪行動、売春、精神科症状、社会機能、雇用状況、ホームレスかどうか、および治療の維持率である。

どのような研究が含まれているのか？

ここに含まれる研究は、違法薬物依存の参加者を対象に、12-ステップの介入について、無作為化比較試験と擬似実験的研究を用いて評価している。研究対象者は、性別や宗教的背景にかかわらず、1種類かそれ以上の違法薬物を使用した人である。



このレビューはどのようにして更新されるのか？

レビューの著書は、2016年9月までに公開された研究を検索した。このキャンベル系統的レビューは、2017年2月に公表された。

キャンベル共同計画とは何か？

キャンベル共同計画とは、系統的レビューを公表する、国際的、任意的、非営利的な研究ネットワークである。われわれは、社会科学や行動科学の領域における取り組みのエビデンスの質を要約し、評価している。われわれの目的は、人々のより良い選択とより良い政策決定を支援することである。

この要約について

この要約は、キャンベル系統的レビュー 2017:2 12-step programs for reducing illicit drug useに基づき、Ada Chukwudozie と Howard White (Campbell Collaboration) によって準備された。系統的レビューは、Martin Bøg、Trine Filges、Lars Brännström、Anne-Marie Klint Jørgensen、Maja Karrman Fredrikksson (DOI 10.4073/csr.2017.2)による。レイアウトと編集は、Tanya Kristiansen (Campbell Collaboration) によって行われた。この要約の制作にあたりthe American Institutes for Researchが資金援助を快諾してくれた。



1,071人の参加者から成る全部で10の研究が、最終評価に含まれている。研究の内の9つはアメリカ合衆国、1つは英国において実施された。研究では、12-ステッププログラムと他の介入とが比較される。メタアナリシスに組み入れられたのは9の研究であった。

このレビューの主な結果は何か？

薬物使用の減少について12-ステップ介入と他の心理社会的介入とを比較したところ、治療期間中、治療後、6ヶ月後と12ヶ月後のフォローアップ時において、有効性の違いは認められない。12-ステッププログラムに追加の治療を組み合わせた場合には、6ヶ月後のフォローアップ時に効果が認められたが、この結果の根拠となる研究は少なく、そして12ヶ月後のフォローアップ時には効果は認められていない。

エビデンスの中には、12ステッププログラムが他のプログラムに比べて、プログラムにとどまる人数が少ないというものもあるが、そのエビデンスは不十分である。他の二次的結果に対する効果は認められなかった。

このレビュー結果は何を意味するのか？

このレビューで示された主要なエビデンスは、違法薬物使用の減少に向けた12-ステッププログラムは、他の介入に比べて、良く悪くもないということである。

この結論は、研究により示されたエビデンスの弱さを考慮し、注意して読まれるべきである。

12-ステップ介入と別の心理社会的介入の違いを検出する力は低く、予測されるエフェクトサイズは小さかった。多くの研究が、介入がグループに施されているという事実を調整しなかった。それ故、有効性を過大評価するのかもしれない。これら全ての不十分さを考慮すると、このタイプの介入の有効性、特に自助グループにおいて、更なるエビデンスが必要とされる。